

西海ブロック水産業情報

NO. 85 (平成26年4月～6月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>筑前海 今漁期のフトモズク養殖生産量は10.4トンド、前年比の約5倍と好調であった。市場単価が低額のため生産を終了した。</p> <p>豊前海 【カキ養殖】 ・南部の漁場で軽微な魚類による食害があるが、成長、生残とも良好に推移。 ・今年度は、カキ養殖をしている全漁協(支所)で自家採苗を実施予定。 【栽培漁業】 ・クルマエビ及びガザミの中間育成を実施。 ・「かぐや方式」によるアサリ増殖試験を実施中。 【資源管理】 ・5月1日から、抱卵ガザミの再放流を実施。</p> <p>有明海 (ノリ養殖)カキ殻系状態培養が3ヶ月経過した。生長は順調で胞子のう形成割合は3割程度。</p>	<p>・マガキ養殖 大浦地先における本年度のマガキ養殖は、平成26年2月上旬に宮城県から種カキを購入し、4月下旬から5月中旬まで干潟で抑制飼育を行った後、沖合の22基の筏(16経営体)で養殖が行われている。 ・サルボウ養殖 本年度のサルボウの漁獲量は、関係漁協支所への聞き取り調査の結果から、約2,500トンと推定している。</p> <p>【種苗生産】 ・カサコ:4月～6月中旬までに、中間育成用約15万尾(45mmサイズ)配布。 ・アカウニ:3月～5月までに、放流用約110万個(10～15mmサイズ)、養殖用約10万個(10～15mmサイズ)配布。 ・マナマコ:6月下旬より放流用種苗配布中。9月までに、計約140万個(10～20mmサイズ)配布予定。</p>	<p>○標識放流 ・トラフグ(全長70mm、156千尾、有明海)、ホシガレイ(全長65mm、27千尾、有明海) ・クルマエビ(全長50mm、428千尾、有明海) ○放流魚追跡調査 ・トラフグ、ホシガレイ、ヒラメ、オニオコゼ、ガザミ、クルマエビ他について追跡調査を実施 ○養殖魚類の育種技術開発研究事業 【トラフグ】代理親魚技術によるトラフグYY雄作出試験実施中。優良親魚候補(早熟)由来種苗の形質評価試験実施中。 【ホシガレイ】超雌個体の飼育試験実施中。 ○良質な種苗の生産技術開発研究事業 【カワハギ】養殖に適した種苗として早期種苗の生産試験中 【クロマダコ】種苗生産試験実施中 ○クロマダコの種苗生産に向けた飼養技術の高度化(プロジェクト研究) 【クロマダコ】シロギス幼魚・親魚の継続飼育中。 ○貝類の増養殖試験研究 ・タイラギ、マガキ(シングルシード)の養殖試験等を実施中。 ・タイラギの種苗生産試験を開始。</p>	<p>○種苗生産施設のヒラメにおいて、VHS感染症による大量斃死が確認された(4月～5月)。 ○養殖マダイにおいて、生殖腺発達の影響による生理障害が確認された(3月～5月 ロンギコラムによる影響あり)。 ○ヒジキの採苗講習会を実施した。(漁業者等約50名参加)</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・3月下旬～5月下旬 吹上浜沿岸でシオミドロ類が大量に発生し、網漁業の操業に支障あり ・5/2～19 籠島浦内湾でOctactis octonariaによる赤潮が発生(最高細胞数1,116cells/ml) ・5/14～18 長島町浦底湾でHeterosigma akashiwoによる赤潮が発生(最高細胞数40,000cells/ml) ・6/23～7/7 鹿児島湾奥でChattonella marinalによる赤潮が発生(最高細胞数1,600cells/ml)</p> <p>・シラヒゲウニ:5～6月に稚ウニ約5万個を奄美群島内6箇所に放流</p>	<p>○アカアマダイ種苗生産試験関連 平成25年10月下旬から種苗生産試験を開始し、継続飼育中。6月30日現在で日齢239となり、平均全長は8～13cm程度で26尾が生残している。</p>		